

生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞

令和6年度年次報告書



令和7年 12月
船橋市環境部環境政策課

はじめに

船橋市では2016年度（平成28年度）に、市における生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画として、生物多様性ふなばし戦略（以下、戦略という）を策定しました。戦略では、台地から海に至る多様な自然環境の中で、人と生き物が共生している船橋を目指し、長期目標年度である2050年度（令和32年度）の将来像を「台地から海へ 水・緑・^{いのち}生命と共に暮らす^{まち}都市」と示しました。

将来像を達成するための戦略の目標として、長期目標年度に向けた5つの基本方針と目標を掲げました。この目標を達成するために、戦略の対象とする期間（2017年度（平成29年度）から2026年度（令和8年度）までの10年間）で実施する短期的な取組を、長期的な目標ごとに基本的な施策として細分化しました。

その後、生物多様性を取り巻く環境の変化を受け、戦略を推進するための施策を見直し、2021年度（令和3年度）末に戦略を改定しました。戦略の改定においては、5つの基本方針は変更しませんでした。今後5年間重点的に進めていく取組を3つのリーディングプロジェクトとして設定しました。

戦略の改定版においては、めざす将来像の実現に向けて取組を推進するために、取組の実施状況や戦略管理指標の数値等について、毎年度、点検・評価を行い、戦略の継続的な改善に取り組めます。

この報告書は、2024年度（令和6年度）における戦略の進捗状況の評価を実施し、その結果を年次報告として取りまとめたものです。

目 次

第一章 生物多様性ふなばし戦略<改定版>の戦略管理指標及び取組の 評価について	1
1 戦略の目標（基本方針と目標）	2
2 リーディングプロジェクト	3
3 評価の対象	4
4 評価方法（戦略管理指標と取組）	4
第二章 生物多様性ふなばし戦略<改定版>の進捗状況の総合的評価	5
1 戦略全体及びリーディングプロジェクトにおける総合評価	6
2 戦略全体の評価	7
3 リーディングプロジェクトの全体的な評価	9
第三章 生物多様性ふなばし戦略<改定版>の進捗状況の評価	11
各ページの見方	12
基本方針毎の評価	16
区分1 「生物多様性の保全と持続可能な利用」に関する取組	16
基本方針① 台地から浅海域までを結ぶ多様な自然環境の保全と利用 ..	16
基本方針② 生き物を育む水循環の確保	22
基本方針③ 生物多様性を活かした取組の推進	25
区分2 「戦略への参画・連携等の促進」に関する取組	28
基本方針④ 普及啓発・環境教育の推進	28
基本方針⑤ 多様な主体の取組の推進	32
リーディングプロジェクト毎の評価	35
リーディングプロジェクト①	
「船橋の自然の情報を集めよう！見える化しよう！」プロジェクト	35
リーディングプロジェクト②	
「生物多様性の大切さを学ぼう！」プロジェクト	37
リーディングプロジェクト③	
「生物多様性へ配慮するための仕組みづくり」プロジェクト	40

第一章

生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞の戦略管理指標 及び取組の評価について

1 戦略の目標（基本方針と目標）

生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞では、目指す将来像を達成するため、第4章「めざす将来像と施策の体系」で定めた以下の5つの基本方針をもとに本市の特色を活かした各種の取組を展開しています。

《めざす将来像》

台地から海へ 水・緑・生命と共に暮らす都市

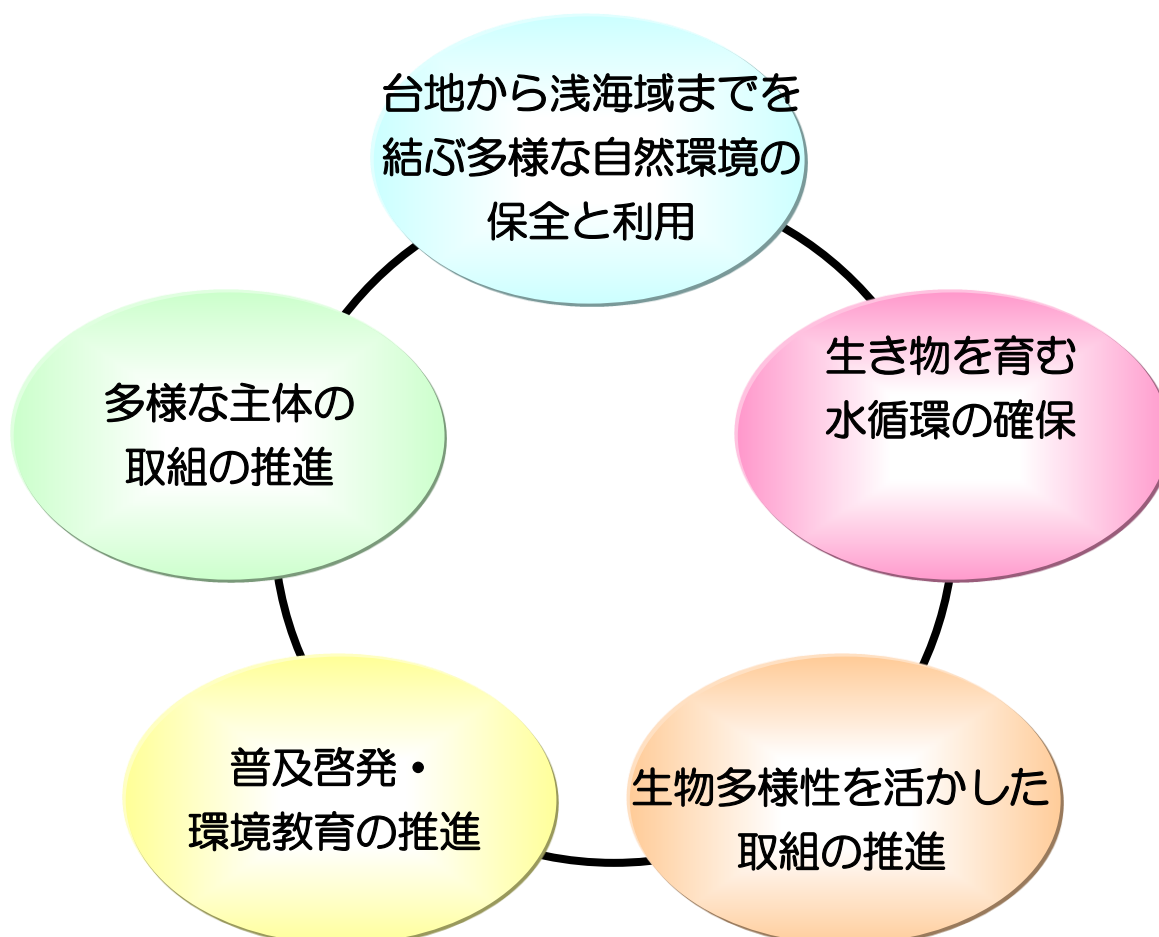


図1 5つの基本方針

2 リーディングプロジェクト

生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞において示した取組について、今後5年間、市民・事業者・市が、特に重点的に進めていくものを、3つのリーディングプロジェクトとして設定しています。

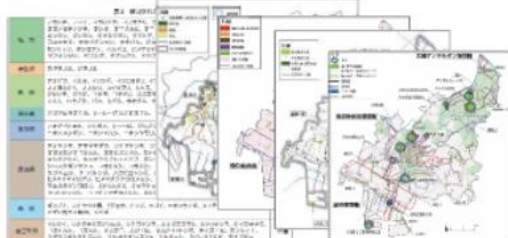
リーディングプロジェクト①

「船橋の自然の情報を集めよう！見える化しよう！」プロジェクト

船橋市の生物多様性の状況を把握し、基礎資料として活用できるよう、市民、事業者、研究機関などと連携した自然環境調査、指標種のモニタリング調査を実施します。調査した情報を蓄積し、マップなどのわかりやすく活用しやすいかたちで整理します。



市民参加の指標種モニタリング調査



自然環境情報の蓄積・見える化と活用



リーディングプロジェクト②

「生物多様性の大切さを学ぼう！」プロジェクト

ふなばし三番瀬環境学習館等を活用した生物多様性の学習を推進します。また、農業・漁業体験の推進、事業所における学習の推進、学校給食での食育などを通じて、生物多様性の大切さと、生物多様性の保全や持続的な利用の取組につなげていきます。



体験・学習イベント開催



農産物情報の積極的発信



地元食材を使った学校給食



リーディングプロジェクト③

「生物多様性へ配慮するための仕組みづくり」プロジェクト

ふなばしエコカレッジを通して生物多様性に関する取組の後継者を育成し、持続的な活動を推進します。市民や市民団体、事業者など多様な主体が連携しながらそれぞれの生物多様性の取組を進めていけるよう「ふなばし市民力発見サイト」の活用を進めます。



ふなばし市民力発見サイトの活用



生物多様性情報室での事業者の取組情報の発信



(生物多様性ふなばし戦略(改定版) 概要版 P6 より)

3 評価の対象

評価の対象は、生物多様性ふなばし戦略<改定版>の第5章「施策の展開」で定めた5つの基本方針及び3つのリーディングプロジェクトに設定した“戦略管理指標（状態指標、目標指標）”及び“取組”としました。

この報告書は、生物多様性ふなばし戦略<改定版>の戦略管理指標に係る最新のデータ及び取組の進捗状況の把握のために、各課を対象として実施した「生物多様性ふなばし戦略<改定版>施策進捗状況調査」の結果等を取りまとめたものです。

なお、実施した評価の結果については、船橋市環境審議会に報告し意見を伺うとともに、市ホームページや環境白書などで公開し、市民・事業者など各主体に意見や提言を求め、取組を改善させていくものとしております。

4 評価方法（戦略管理指標と取組）

基本方針毎に設定した“戦略管理指標”については、把握可能な最新のデータを目標年度のデータと比較しています。基本方針等における状態指標の評価基準は以下のとおりです。

評価S：目標年度における目標を大幅に上回る状況である。

評価A：目標年度における目標を上回る状況である。

評価B：目標年度における目標達成に向けて順調な状況である。

評価C：目標年度における目標達成に概ね順調な状況だが、一部改善の余地がある。

評価D：目標年度における目標達成に向けて遅れがみられる状況であり、必要に応じて取組等を見直す必要がある。

評価E：目標年度における目標達成が困難な状況であり、取組等を見直す必要がある。

また、取組の担当課に対して自己評価による状況調査を実施し、以下の4段階で評価を行います。

1：評価点3点……予定を上回る実施状況である。（達成率100%を超える）

2：評価点2点……おおよそ予定どおりの実施状況である。（達成率80%～100%）

3：評価点1点……取組は実施しているが遅れ又はその実施内容に進展が見られない。
（達成率60%～80%）

4：評価点0点……実施予定に全く達しない状況である。（達成率60%未満）

※達成率は令和5年度の目標を基準とします。

基本的な施策の進捗評価については、取組の評価点の平均値を記載しています。

（例）P20 基本的な施策「樹林地の保全と利用」

$$\frac{3(\text{点}) \times 0(\text{個}) + 2(\text{点}) \times 2(\text{個}) + 1(\text{点}) \times 1(\text{個}) + 0(\text{点}) \times 0(\text{個})}{3(\text{取組総数})} = 1.67$$

基本方針、リーディングプロジェクト毎に、戦略管理指標の状態指標を中心に取組の進捗状況と併せて総合的に評価し今後の方針を示しています。

第二章

生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞の 進捗状況の総合的評価

1 戦略全体及びリーディングプロジェクトにおける総合評価

(1) 生物多様性ふなばし戦略全体における総合評価

戦略全体における総合評価を以下に示します。

<総合評価>

生物多様性に関する 状態評価	取組の進捗状況
C	1.85

(2) リーディングプロジェクトにおける総合評価

リーディングプロジェクトにおける総合評価を以下に示します。

<総合評価>

生物多様性に関する 状態評価	取組の進捗状況
D	1.99

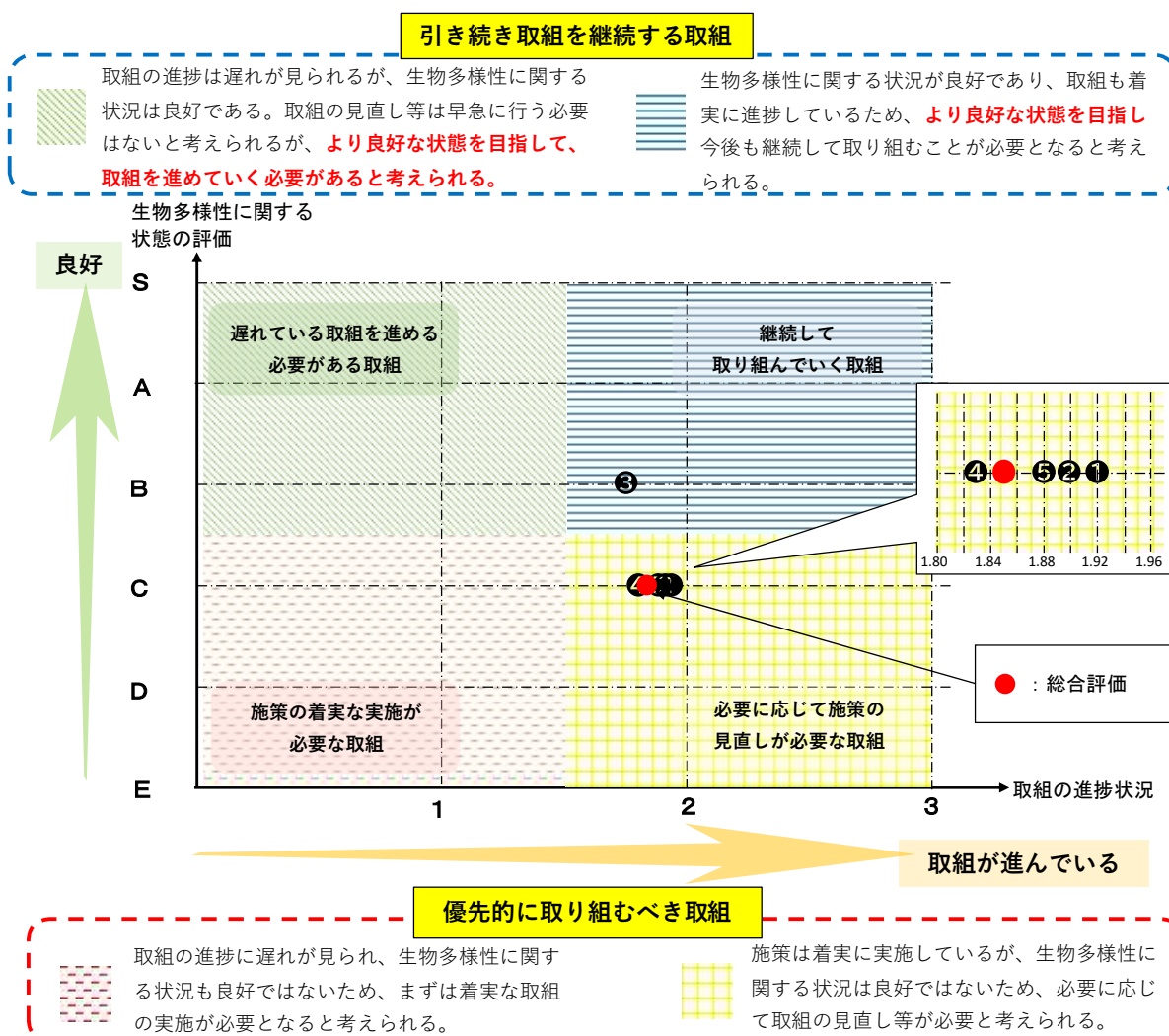
2 戦略全体の評価

(1) 各基本方針における生物多様性に関する状態の評価と施策の進捗状況

各基本方針の現状と取組の進捗状況の関係を以下の表及び図で示します。

※各基本方針における生物多様性に関する状態及び取組の進捗の詳細は、第三章「生物多様性ふなばし戦略<改定版>の進捗状況の評価」(P 11以降)で記載します。

	基本方針	生物多様性に関する状態の評価	取組の進捗状況
①	台地から浅海域までを結ぶ多様な自然環境の保全と利用	C	1.92
②	生き物を育む水循環の確保	C	1.90
③	生物多様性を活かした取組の推進	B	1.73
④	普及啓発・環境教育の推進	C	1.83
⑤	多様な主体の取組の推進	C	1.88
	総合評価	C	1.85



(2) 戦略全体の総合的な評価

総合評価については、生物多様性に関する状態評価が評価C、取組の進捗状況が「1.85」となった。令和5年度年次報告書の総合評価においては、生物多様性に関する状態評価が評価C、取組の進捗状況が「1.94」であり、全体として大きな変化は見受けられなかった。

5つの各基本方針においては、生物多様性に関する状態評価では、評価Bが1つ、評価Cが4つとなった。

評価Cとなった基本方針②「生き物を育む水循環の確保」については、令和5年度年次報告書における同評価は評価Dであり、基本的な施策②-2「水質等の保全」の指標である「全窒素の環境基準達成率（海域）」及び、「CODの環境基準達成率（海域）」の向上が確認されたことから、評価の上昇につながった。

一方、その他の基本方針については、令和5年度年次報告書と比較して、生物多様性に関する評価については変化がなく、基本方針①「台地から浅海域までを結ぶ多様な自然環境の保全と利用」、基本方針④「普及啓発・環境教育の推進」、基本方針⑤「多様な主体の取組の推進」については、生物多様性に関する状態が良好でないことから、必要に応じて見直しも検討しながら、めざす将来像の実現に向けて、より一層効果的な取組に努めることが望ましい。

なお、基本方針③、④、⑤については、状態指標の大部分を隔年で実施するアンケート結果に基づくものとしており、新たなアンケートの実施がなかった今回の評価では変化が大きく見られなかった要因となっているため、次のアンケート調査結果を反映する次年度の年次報告書の作成においては状態指標の変化に注視する必要がある。

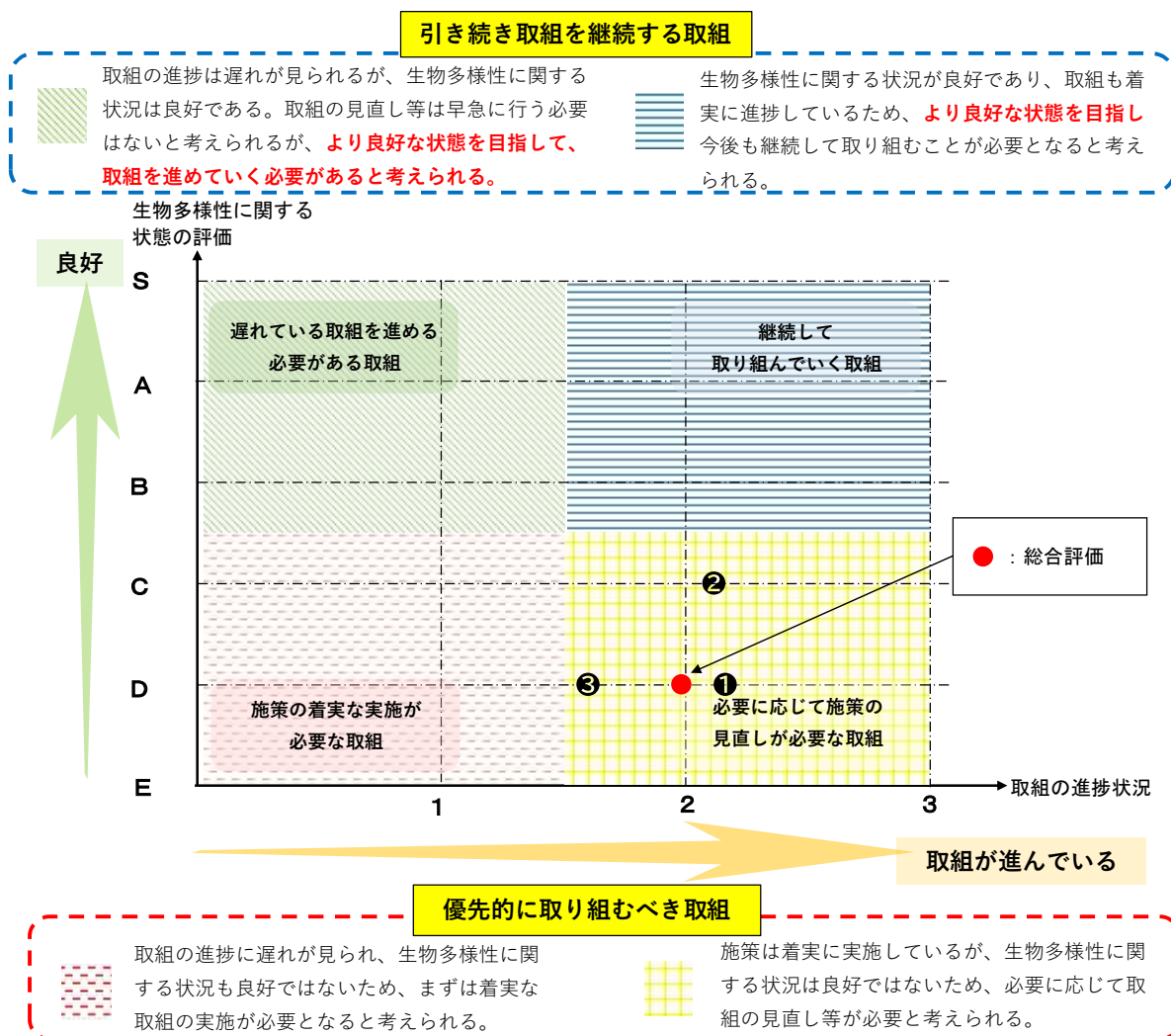
3 リーディングプロジェクトの全体的な評価

(1) リーディングプロジェクトにおける生物多様性に関する状態の評価と取組状況

リーディングプロジェクト毎の環境の現状と各主体による取組状況を以下の表及び図で示します。

※リーディングプロジェクト毎における生物多様性に関する状態及び取組状況の詳細は、第三章「生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞の進捗状況の評価」（P 35以降）で記載します。

リーディングプロジェクト	生物多様性に関する状態の評価	取組の進捗状況
① 「船橋の自然の情報を集めよう！見える化しよう！」プロジェクト	D	2.20
② 「生物多様性の大切さを学ぼう！」プロジェクト	C	2.18
③ 「生物多様性へ配慮するための仕組みづくり」プロジェクト	D	1.60
総合評価	D	1.99



(2) リーディングプロジェクトにおける総合的な評価

総合評価については、生物多様性に関する状態評価が評価D、取組の進捗状況が「1.99」となった。令和5年度年次報告書の総合評価においては、生物多様性に関する状態評価が評価D、取組の進捗状況が「2.17」で、状態評価に変化はないものの、取組の進捗状況については、遅れがみられる傾向となっているが、戦略全体の取組の進捗状況「1.85」と比較するとやや進んでおり、より重点的に取り組んでいる傾向が見受けられた。

3つのリーディングプロジェクトにおける生物多様性に関する状態評価は、評価Cが1つ、評価Dが2つとなった。

リーディングプロジェクトの中で遅れがみられる取組に関して、リーディングプロジェクト②の「ふるさと農園区画数」については、相続等を理由とするやむをえない状況による閉園が新規開設を上回っている状況であるが、農作物の栽培をやめる土地の所有者がおられる場合には、機会を捉えてふるさと農園への協力を提案しており、今後も継続していく。

また、リーディングプロジェクト③の「ふなばしエコカレッジ卒業生数」については、卒業生数が目標値に届かなかったが、募集時期の変更や効果的な広報により受講者数の増加を図っていく。

生物多様性に関する興味・関心は、ふなばし三番瀬環境学習館の利用者数や、各種イベントの申込者数の増加から、高まりが見受けられる。令和6年度に作成された「生物多様性配慮に関する手引き」を含め、様々な形での周知啓発を行うとともに、令和7年度まで調査を行っている約10年に1回の自然環境調査等による生物の生息・生育に関する情報等を収集し、引き続き、ふなばしエコカレッジを軸とした市内の自然環境保全活動が継続出来る仕組みづくり等を確実に進め、より良好な生物多様性の状態を目指していく。

第三章

生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞の 進捗状況の評価

第三章 生物多様性ふなばし戦略<改定版>の進捗状況の評価 各ページの見方

基本方針①：台地から浅海域までを結ぶ多様な自然環境の保全と利用

(生物多様性ふなばし戦略<改定版> P 60)

(1) 状態指標の状況

① 状態指標	② 基準値		③ 現状		④ 目標値		⑤	⑥ 評価
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)	(2024年度) (令和6年度)		2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)		
			現状値	目標値				
基本的な施策①-1 樹林地の保全と利用 状態指標なし								
基本的な施策①-2 畑地・水田の保全と利用								
地場食材を意識して購入している市民の割合	54.5%	61.1% (※1)	69.1%	68%	70%	70%		B
基本的な施策①-3 草地の保全と利用 状態指標なし								
基本的な施策①-4 干潟・浅海域の保全と利用								
全窒素の環境基準達成率(海域)	100%	75%	75%	100%	100%	100%		C
全りんごの環境基準達成率(海域)	50%	50%	0%	100%	100%	100%		E
CODの環境基準達成率(海域)(※2)	75%	75%	75%	100%	100%	100%		C
青潮などの年間発生回数	5回	1回	2回	0回	0回	0回		D
ガンカモ類の個体数(※3)	26,631羽	41,552羽	17,112羽	2万羽以上維持 (毎年度)	2万羽以上維持 (毎年度)	2万羽以上維持 (毎年度)		E
ミヤコドリの個体数(※3)	306羽	394羽	415羽	100羽以上維持 (毎年度)	100羽以上維持 (毎年度)	100羽以上維持 (毎年度)		S

(※1) 2019年度(令和元年度)実績値です。

(※2) 水の汚れを分解する際に必要となる酸素量のことで、水の汚れを示す代表的な指標です。

(※3) 各数値は報告書作成時において、環境省の報告書で確認できる直近3か年の数値の平均値です。

①状態指標

各基本方針において、生物多様性に関わる状態を把握するための状態指標を示しています。状態指標は取組の成果だけでなく、様々な要因によって変動する指標となります。なお、状態指標を設定していない一部の基本方針では、評価のため、他の基本方針の状態指標のうち、適当と考えられる状態指標を使用しています。

また、リーディングプロジェクトでは、戦略策定・改定時における状態指標を設定していませんでしたが、今回評価にあたり、適当と考えられる状態指標を新たに設定しております。

②基準値（２０１５年度（平成２７年度）及び２０２０年度（令和２年度））

生物多様性ふなばし戦略は２０１６年度（平成２８年度）に策定し、その後２０２１年度（令和３年度）に改定しております。そのため、策定・改定の直近となる２０１５年度（平成２７年度）、２０２０年度（令和２年度）の数値を基準値として設定しています。現状の評価を行う際には、原則的に２０２０年度（令和２年度）の数値と比較しています。

③現状 現状値・目標値（２０２４年度）（令和６年度）

現状値は、状態指標の直近の把握している数値となります。今年度の数値は来年度に取りまとめるため、現状値は２０２４年度（令和６年度）の数値となります。

目標値は、２０２４年度（令和６年度）の目標値を記載しています。

④目標値（２０２５年度）（令和７年度）

③の目標値及び現状値の結果を踏まえた上で、翌年度である２０２５年度（令和７年度）の目標数値を設定しています。

⑤目標値（２０２６年度）（令和８年度）

生物多様性ふなばし戦略の対象期間が２０１７年度（平成２９年度）から２０２６年度（令和８年度）となっており、戦略目標年度における状態指標の目標数値を示しています。

⑥評価

③の現状値の結果を基に、第一章で定めた評価基準により状態指標ごとに評価を行います。

(2) 取組の進捗状況

●目標指標の状況

① 目標指標	② 基準値		③ 現状		④ 目標値		⑤
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)	(2024年度) (令和6年度)		2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	
			現状値	目標値			
基本的な施策①-1 樹林地の保全と利用							
樹林地を維持・保全するための施策の実施面積	206ha (平成25年度)	194ha	197ha	216ha	226ha		検討中
基本的な施策①-2 畑地・水田の保全と利用							
援農ボランティアの会員数（累計）	149人	359人	413人	会員数の増加	会員数の増加	会員数の増加	
ふるさと農園区画数	1,146区画	1,054区画	448区画	1,482区画	1,608区画	1,700区画	
地場産物の食材を活用した「食に関する指導」の授業を実施した学校の割合	56.1%	62.2%	72.0%	76.0%	75%	80%	
基本的な施策①-3 草地の保全と利用 目標指標なし							
基本的な施策①-4 干潟・浅海域の保全と利用							
三番瀬クリーンアップ参加延人数(※)	590人	437人	818人	800人	900人	1,000人以上 (毎年度)	
潮干狩り入場者数	132,763人	0人	53,600人	維持	維持	維持	
高度処理型合併処理浄化槽の普及率	16%	28.8%	34.3%	45%	47%	50%	
漁業体験・講座の参加者数	325人	511人	604人	735人	800人	850人	

(※) 報告書作成時における、直近3回の平均値です。

①目標指標

取組に対して設定する取組の進捗状況を示す目標指標を示しています。目標指標は取組の成果を測る指標となります。

②基準値（２０１５年度（平成２７年度）及び２０２０年度（令和２年度））

生物多様性ふなばし戦略は２０１６年度（平成２８年度）に策定し、その後２０２１年度（令和３年度）に改定しております。そのため、策定・改定の直近となる２０１５年度（平成２７年度）、２０２０年度（令和２年度）の数値を基準として設定しています。現状の評価を行う際には、原則的に２０２０年度（令和２年度）の数値と比較しています。

③現状 現状値・目標値（２０２４年度）（令和６年度）

現状値は、状態指標の直近の把握している数値となります。今年度の数値は来年度に取りまとめるため、現状値は２０２４年度（令和６年度）の数値となります。

目標値は、２０２４年度（令和６年度）の目標値を記載しています。

④目標値（２０２５年度）（令和７年度）

③の目標値及び現状値の結果を踏まえた上で、翌年度である２０２５年度（令和７年度）の目標数値を設定しています。

⑤目標値（２０２６年度）（令和８年度）

生物多様性ふなばし戦略の対象期間が２０１７年度（平成２９年度）から２０２６年度（令和８年度）となっており、戦略目標年度における目標指標の目標数値を示しています。

◆基本方針毎の評価

区分1：「生物多様性の保全と持続可能な利用」に関する取組

基本方針①：台地から浅海域までを結ぶ多様な自然環境の保全と利用
(生物多様性ふなばし戦略<改定版> P60)

(1) 状態指標の状況

状態指標	基準値		現状 (2024年度) (令和6年度)		目標値		評価
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)			2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	
	現状値	目標値					
基本的な施策①-1 樹林地の保全と利用 状態指標なし							
基本的な施策①-2 畑地・水田の保全と利用							
地場食材を意識して購入している市民の割合	54.5%	61.1% (※1)	69.1%	68%	70%	70%	B
基本的な施策①-3 草地の保全と利用 状態指標なし							
基本的な施策①-4 干潟・浅海域の保全と利用							
全窒素の環境基準達成率 (海域)	100%	75%	75%	100%	100%	100%	C
全りんの環境基準達成率 (海域)	50%	50%	0%	100%	100%	100%	E
CODの環境基準達成率(海域) (※2)	75%	75%	75%	100%	100%	100%	C
青潮などの年間発生回数	5回	1回	2回	0回	0回	0回	D
ガンカモ類の個体数 (※3)	26,631羽	41,552羽	17,112羽	2万羽以上維持 (毎年度)	2万羽以上維持 (毎年度)	2万羽以上維持 (毎年度)	E
ミヤコドリの個体数 (※3)	306羽	394羽	415羽	100羽以上維持 (毎年度)	100羽以上維持 (毎年度)	100羽以上維持 (毎年度)	S

(※1) 2019年度(令和元年度)実績値です。

(※2) 水の汚れを分解する際に必要となる酸素量のことで、水の汚れを示す代表的な指標です。

(※3) 各数値は報告書作成時において、環境省の報告書で確認できる直近3か年の数値の平均値です。

状態指標	基準値		現状 (2024年度) (令和6年度)		目標値		評価
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)			2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	
			現状値	目標値			
基本的な施策①-5 河川の保全と利用							
BODの環境基準達成率（河川）（※1）	100%	100%	100%	100%	100%	100%	B
印旛沼流域におけるBOD濃度3mg/L以下達成率	33%	67%	33%	100%	100%	100%	D
海老川流域におけるBOD濃度3mg/L以下達成率	10%	70%	80%	100%	100%	100%	C
水辺を身近に感じる市民の割合	調査実施前	37.5% (※2)	42.2% (※3)	割合の向上 (調査毎)	割合の向上 (調査毎)	割合の向上 (調査毎)	B
基本的な施策①-6 公園・緑地の整備							
市民一人当たりの都市公園面積	3.16㎡/人	3.37㎡/人	3.39㎡/人	3.50㎡/人	3.63㎡/人	3.63㎡/人 (令和7年度)	C
基本的な施策①-7 風致地区の維持・保全 状態指標なし							
基本的な施策①-8 侵略的外来種対策の推進 状態指標なし							
基本的な施策①-9 自然環境モニタリングの実施 状態指標なし							

（※1） 水の汚れを分解する際に必要となる酸素量のことで、水の汚れを示す代表的な指標です。

（※2） 2022年度（令和4年度）実績値です。

（※3） 2024年度（令和6年度）実績値です。

【状態指標の状況について】

- ・ 地場食材の購入割合は、基準値を上回り、目標値を達成している。
- ・ 海域環境は、全窒素、全りん、COD において、環境基準値を満たしていない地点があり、改善の余地があり、基準年度より数値が低下している。
- ・ 青潮が発生している状況である。
- ・ ミヤコドリの個体数は戦略目標年度の目標値を上回っている状況である一方、ガンカモ類については、目標をわずかに下回る状況である。
- ・ 河川環境は、BOD の環境基準達成率が目標に達しており、良好な水環境であると見受けられるものの海老川流域、印旛沼流域ともに目標としている BOD 3mg/L 以下を達成していない地点があり、更なる改善の余地がある。
- ・ 水辺を身近に感じる市民の割合は、令和4年度のアンケート調査より増加したが、今後も割合が増えるよう取り組む必要がある。
- ・ 市民一人当たりの都市公園面積は、本市の人口が微増傾向にあることもあり、目標値に達していない。

(2) 取組の進捗状況

●目標指標の状況（戦略に記載した目標指標）

目 標 指 標	基 準 値		現 状 (2024年度) (令和6年度)		目 標 値	
	戦 略 策 定 時 (2015 年度) (平成27 年度)	戦 略 改 定 時 (2020 年度) (令和2 年度)			2025 年度 (令和7 年度)	2026 年度 (令和8 年度)
	現 状 値	目 標 値				
基本的な施策①-1 樹林地の保全と利用						
樹林地を維持・保全するための施策の実施面積	206ha (平成25年度)	194ha	197ha	216ha	226ha	検討中
基本的な施策①-2 畑地・水田の保全と利用						
援農ボランティアの会員数（累計）	149人	359人	413人	会員数の増加	会員数の増加	会員数の増加
ふるさと農園区画数	1,146区画	1,054区画	448区画	1,482区画	1,608区画	1,700区画
地場産物の食材を活用した「食に関する指導」の授業を実施した学校の割合	56.1%	62.2%	72.0%	76.0%	75%	80%
基本的な施策①-3 草地の保全と利用 目標指標なし						
基本的な施策①-4 干潟・浅海域の保全と利用						
三番瀬クリーンアップ参加延人数(※)	590人	437人	818人	800人	900人	1,000人以上 (毎年度)
潮干狩り入場者数	132,763人	0人	53,600人	維持	維持	維持
高度処理型合併処理浄化槽の普及率	16%	28.8%	34.3%	45%	47%	50%
漁業体験・講座の参加者数	325人	511人	604人	735人	800人	850人

(※) 報告書作成時における、直近3回の平均値です。

目 標 指 標	基 準 値		現 状 (2024年度) (令和6年度)		目 標 値	
	戦 略 策 定 時 (2015 年度) (平成27 年度)	戦 略 改 定 時 (2020 年度) (令和2 年度)			2025 年度 (令和7 年度)	2026 年度 (令和8 年度)
			現 状 値	目 標 値		
基本的な施策①-5 河川の保全と利用						
排水規制に係る立入検査実施率	47%	42%	76%	53%	54%	55%
多自然川づくり改修延長	4,570m	5,110m	5,110m	5,190m	5,276m	6,560m
水辺空間の整備箇所数 (累計)	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	5箇所
公共下水道普及率	82%	90%	92.2%	95%	普及率の向上	普及率の向上
高度処理型合併処理浄化槽の普及率〈再掲〉	16%	28.8%	34.3%	45%	47%	50%
基本的な施策①-6 公園・緑地の整備						
都市公園の総面積	198ha	218ha	220ha	227ha	231ha	検討中
基本的な施策①-7 風致地区の維持・保全 目標指標なし						
基本的な施策①-8 侵略的外来種対策の推進 目標指標なし						
基本的な施策①-9 自然環境モニタリングの実施						
指標種のモニタリング調査報告件数	調査実施前	30件	255件	200件	200件	200件
動植物種の状況	c 評価 (平成28 年度)	c 評価 (令和3 年度)	c 評価	c 評価	b 評価	b 評価

●取組の進捗評価

基本的な施策		取組の 進捗評価	取組の数				総数
			3点～	2点～	1点～	0点	
①-1	樹林地の保全と利用	1.67	0	2	1	0	3
①-2	畑地・水田の保全と利用	1.93	1	5	1	0	7
①-3	草地の保全と利用	2.00	0	1	0	0	1
①-4	干潟・浅海域の保全と利用	1.68	0	5	1	0	6
①-5	河川の保全と利用	1.92	1	4	0	0	5
①-6	公園・緑地の整備	1.79	0	6	1	0	7
①-7	風致地区の維持・保全	2.00	0	2	0	0	2
①-8	侵略的外来種対策の推進	2.00	0	4	0	0	4
①-9	自然環境モニタリングの実施	2.25	1	3	0	0	4
総合		1.92					

評価点 2 点を超える取組：①農地の担い手支援

（「基本的な施策：畑地・水田の保全と利用」に含まれる取組）

②水辺空間の保全のための意識のさらなる向上

（「基本的な施策：河川の保全と利用」に含まれる取組）

③指標種を用いたモニタリングの実施

（「基本的な施策：自然環境モニタリングの実施」に含まれる取組）

評価点 0 点の取組：なし

【取組の進捗状況について】

- ・目標指標の状況では遅れが見られる指標があるが、全体的に取組はある程度予定に即した形で進行していると見受けられる。
- ・取組の進捗評価から、総合評価として 1.92 となっており、一部で若干の遅れが見られる取組があるものの、順調に進んでいる取組が多く、ある程度予測に即した形で取組が進んでいるものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	・ 地場食材の購入割合：目標値を上回る状況。 ・ 海域環境：全窒素・全りん・COD において環境基準値未達地点有り。また、青潮が2回発生。 ・ ミヤコドリ個体数：戦略目標年度の目標値を上回る状況。 ・ ガンカモ類個体数：戦略目標年度の目標値を下回る状況。 ・ 河川環境：BOD 環境基準達成率良好。目標 BOD に対しては未達地点有り。 ・ 水辺を身近に感じる市民の割合：アンケート回答者の約4割。 ・ 市民一人当たりの都市公園面積：目標値未達成。
取組の進捗状況	
取組の進捗評価点	1.92
まとめ	一部で若干の遅れが見られる取組があるものの、順調に進んでいる取組が多く、ある程度予測に即した形で取組が進んでいるものと見受けられる。 なお、目標指標における、「動植物種の状況」の評価については、自治体による自然環境調査の実施状況により評価されるものであるが、令和6年度から7年度にかけて自然環境調査を実施することにより評価の向上が見込まれる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	ミヤコドリ個体数や、地場食材の購入割合については、戦略目標年度の目標値達成に向けて良好な状況であるが、海域水質、河川水質における一部の目標値、市民一人当たりの都市公園面積については、令和6年度の目標値に未達である状況からC評価とした。 河川環境においては、BOD が良好なことから、一定の水環境であると評価できるが、海老川流域・印旛沼流域の河川における BOD 目標値未達の地点があるため、引き続き公共下水道整備事業、浄化槽の適切な維持管理の周知等の排水への対策を実施していく必要がある。 船橋市が面する海域環境については、施策はある程度予定に即した進捗であり、状態指標も一部値の向上が見られるが、目標値には未達であることから、良好な状態ではないと見受けられる。しかしながら、東京湾の水質は、流域の1都3県（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）から流入する汚濁や沿岸・海底の地形のほか気象条件にも大きく左右されるものであることから、現状から急激な改善は難しいと考えられるため、当面は引き続き、各取組を確実に実施し、経過を観察していくことが望ましい。 今後についても、戦略に基づき、本市の台地から浅海域を結ぶ多様な自然環境をモニタリングしながら、侵略的外来種対策を含む、各地形等に応じた保全を進めていく必要がある。
C	

基本方針②：生き物を育む水循環の確保

（生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞ P 7 6）

（１）状態指標の状況

状態指標	基準値		現状 (2024年度) (令和6年度)		目標値		評価
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)			2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	
	現状値	目標値					
基本的な施策②-1 水量の確保・地下水涵養の促進 状態指標なし							
基本的な施策②-2 水質等の保全							
全窒素の環境基準達成率 (海域)〈再掲〉	100%	75%	75%	100%	100%	100%	C
全りんごの環境基準達成率 (海域)〈再掲〉	50%	50%	0%	100%	100%	100%	E
CODの環境基準達成率(海域) (※)〈再掲〉	75%	75%	75%	100%	100%	100%	C
BODの環境基準達成率(河川) (※)〈再掲〉	100%	100%	100%	100%	100%	100%	B

（※） 水の汚れを分解する際に必要となる酸素量のことで、水の汚れを示す代表的な指標です。

【状態指標の状況について】

- ・ 海域環境は、全窒素・全りん・COD において、環境基準値を満たしていない地点があり、改善の余地があり、基準年度より数値が低下している。
- ・ 河川環境は、BOD の環境基準達成率が目標に達しており、良好な水環境であると見受けられる。

(2) 取組の進捗状況

●目標指標の状況（戦略に記載した目標指標）

目 標 指 標	基 準 値		現 状 (2024年度) (令和6年度)		目 標 値	
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)			2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)
	現状値	目標値				
基本的な施策②-1 水量の確保・地下水涵養の促進						
透水性舗装の整備実績	累計 111,422㎡	累計 136,187㎡	累計 142,924㎡	累計 143,900㎡	累計 146,100㎡	累計 148,300㎡
流域貯留浸透事業に基づいて整備した雨水貯留浸透施設の整備率	54%	57%	58%	58%	60%	60%
樹林地を維持・保全するための施策の実施面積〈再掲〉	206ha (平成25年度)	194ha	197ha	216ha	226ha	検討中
都市公園の総面積〈再掲〉	198ha	218ha	220ha	227ha	231ha	検討中
基本的な施策②-2 水質等の保全						
高度処理型合併処理浄化槽の普及率〈再掲〉	16%	28.8%	34.3%	45%	47%	50%
排水規制に係る立入検査実施率〈再掲〉	47%	42%	76%	53%	54%	55%
多自然川づくり改修延長〈再掲〉	4,570m	5,110m	5,110m	5,190m	5,276m	6,560m
公共下水道普及率〈再掲〉	82%	90%	92.2%	95%	普及率の向上	普及率の向上

●取組の進捗評価

基本的な施策		取組の 進捗評価	取組の数				
			3点～	2点～	1点～	0点	総数
②-1	水量の確保・地下水涵養の促進	1.93	0	3	0	0	3
②-2	水質等の保全	1.87	0	5	0	0	5
総合		1.90					

評価点2点を超える取組：なし

評価点0点の取組：なし

【取組の進捗状況について】

- ・ 目標指標の状況では遅れが見られる指標があるが、全体的に取組はある程度予定に即した形で進行していると見受けられる。
- ・ 取組の進捗評価から、総合評価として1.90となっており、一部で若干の遅れが見られる取組があるものの、順調に進んでいる取組が多く、ある程度予測に即した形で取組が進んでいるものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	・ 海域環境：全窒素・全りん・CODにおいて環境基準値未達地点有り。 ・ 河川環境：BOD 環境基準達成率良好。
取組の進捗状況	
取組の進捗評価点	1.90
まとめ	一部で若干の遅れが見られる取組があるものの、順調に進んでいる取組が多く、ある程度予測に即した形で取組が進んでいるものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	海域環境については、全りんの環境基準達成率は基準値を下回る状況であるが、その他の項目については、基準年度と同程度の環境基準達成率であったことからC評価とした。 河川環境においては、BODが良好なことから、良好な水環境であると評価できるが、河川環境向上に向けた更なる取組についても、今後検討・実施していくことが望まれる。 船橋市が面する海域環境については、施策はある程度予定に即した進捗だが、状態指標から良好な状態ではないと見受けられる。しかしながら、東京湾の水質は、流域の1都3県（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）から流入する汚濁や沿岸・海底の地形のほか気象条件にも大きく左右されるものであることから、現状から急激な改善は難しいと考えられるため、当面は引続き、各取組を確実に実施し、経過を観察していくことが望ましい。今後についても、戦略に基づき、生きものを育む健全な水循環を確保するために、地下水涵養の促進と水質の保全を進めていく必要がある。
C	

基本方針③：生物多様性を活かした取組の推進

（生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞ P 8 0）

（１）状態指標の状況

状態指標	基準値		現状 (2024年度) (令和6年度)		目標値		評価
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)			2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	
	現状値	目標値					
基本的な施策③-1 生物多様性と文化のつながりの継承 状態指標なし							
基本的な施策③-2 生物多様性を活用したまちづくりの推進							
みどりに対する満足度	調査実施前	63.5% (※1)	68.0% (※2)	満足度の 向上 (調査毎)	満足度の 向上 (調査毎)	満足度の 向上 (調査毎)	B

(※1) 2022年度(令和4年度)実績値です。

(※2) 2024年度(令和6年度)実績値です。

【状態指標の状況について】

- ・みどりに対する満足度は、令和4年度のアンケート調査より増加したが、今後も割合が増えるよう各施策に取り組む必要がある。

(2) 取組の進捗状況

●目標指標の状況（戦略に記載した目標指標）

目 標 指 標	基 準 値		現 状 (2024年度) (令和6年度)		目 標 値	
	戦 略 策 定 時 (2015 年度) (平成27 年度)	戦 略 改 定 時 (2020 年度) (令和2 年度)			2025 年度 (令和7 年度)	2026 年度 (令和8 年度)
	現 状 値	目 標 値				
基本的な施策③-1 生物多様性と文化のつながりの継承						
指定・登録文化財の数	50件	49件	49件	49件	49件	現状維持
基本的な施策③-2 生物多様性を活用したまちづくりの推進						
街路樹改植済み路線数	7路線	9路線	11路線	13路線	14路線	17路線
ふれあい花壇実施箇所数	97箇所	94箇所	98箇所	112箇所	120箇所	検討中
環境共生まちづくり条例 第4条にもとづく「地区環 境形成計画書」による協 議締結面積の割合	0.79%	0.95%	0.95%	1.23%	1.26%	1.30%
花いっぱいまちづくり参 加団体数	31団体	28団体	30団体	45団体	55団体	検討中

●取組の進捗評価

基本的な施策		取組の 進捗評価	取組の数				
			3点～	2点～	1点～	0点	総数
③-1	生物多様性と文化のつながりの継承	1.75	0	3	1	0	4
③-2	生物多様性を活用したまちづくりの推進	1.71	1	6	3	0	10
総合		1.73					

評価点2点を超える取組：生物多様性配慮に関する身近でわかりやすい手引き等の作成

（「基本的な施策：生物多様性を活用したまちづくりの推進」に含まれる取組）

評価点0点の取組：なし

【取組の進捗状況について】

- ・目標指標の状況では遅れが見られる指標がある。
- ・取組の進捗評価から、総合評価として1.73となっており、一部で若干の遅れが見られる取組があるものの、順調に進んでいる取組が多く、ある程度予測に即した形で取組が進んでいるものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	・みどりに対する満足度: アンケート回答者の7割弱が満足していると回答。
取組の進捗状況	
取組の進捗評価点	1.73
まとめ	一部で若干の遅れが見られる取組があるものの、順調に進んでいる取組が多く、ある程度予測に即した形で取組が進んでいるものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	みどりに対する満足度は、令和4年度のアンケート調査より増加したことから評価をBとした。
B	アンケート回答者の7割弱が満足していると回答しているが、引き続き、公園や緑地の整備・保全等により、まちの中の緑の創出を進めていくことが望ましい。
	今後については、戦略に基づき、生物多様性が育んできた歴史や文化について意識するとともに、自然の多面的機能を活用したまちづくりに関する取組を進めていくことが必要である。

区分２：「戦略への参画・連携等の促進」に関する取組

基本方針④：普及啓発・環境教育の推進

（生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞ P 83）

（１）状態指標の状況

状態指標	基準値		現状 (2024年度) (令和6年度)		目標値		評価
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)			2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	
	現状値	目標値					
基本的な施策④-1 環境学習機会の拡充							
生物多様性の認知度 (※1)	調査実施前	40.6% (※2)	40.2% (※3)	認知度の 向上 (調査毎)	認知度の 向上 (調査毎)	認知度の 向上 (調査毎)	D
レクリエーション施設など 利用者数(※4)	859,127人	407,012人	839,853人	850,000 人	850,000 人	利用者数の 増加	C
基本的な施策④-2 人材育成の実施 状態指標なし							

(※1) 言葉の意味まで理解している人の割合です。

(※2) 2022年度(令和4年度)実績値です。

(※3) 2024年度(令和6年度)実績値です。

(※4) 数値は、アンデルセン公園、海浜公園、潮干狩りの利用者数(1月～12月)の合計であり、県で発表している「千葉県観光入込調査報告書」の「スポーツ・レクリエーション施設観光入込客数」にあたり、同報告書内の観光地点入込客数とは異なる。(県の観光地点入込客数は、上記施設にサッポロビール千葉工場の入込客数を含む。)

【状態指標の状況について】

- ・生物多様性を認知する市民の割合は、令和4年度のアンケート調査より減少したため、割合が増えるよう取り組む必要がある。
- ・レクリエーション施設等利用者数は、目標値を達成していない。

(2) 取組の進捗状況

●目標指標の状況（戦略に記載した目標指標）

目標指標	基準値		現状 (2024年度) (令和6年度)		目標値	
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)			2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)
			現状値	目標値		
基本的な施策④-1 環境学習機会の拡充						
自然観察会などの参加延人数（※1）	680人	2,305人	3,729人	2,600人	2,800人	3,000人
環境に関する講座の参加延人数（※1）	1,663人	1,957人	2,693人	2,100人	2,200人	2,300人以上 (毎年度)
環境フェア来場者数（※2）	4,500人	973人	2,637人	2,100人	2,550人	3,000人以上 (毎年度)
環境新聞「エコふなばし」発行回数	1回	1回	2回	2回	2回	3回
ふなばし三番瀬環境学習館の総利用者数	25,236人 (平成29年度)	17,895人	69,472人	58,000人	58,000人	58,000人
ふなばし三番瀬環境学習館で実施する野外ワークショップの参加人数	988人 (平成29年度)	885人	2,834人	2,600人	2,600人	2,600人
基本的な施策④-2 人材育成の実施						
ふなばしエコカレッジ卒業生数	実施前	実施前	20人	30人	30人	60人

（※1） 報告書作成時における、直近3年間の平均値です。

（※2） 報告書作成時における、直近3回の平均値です。

●取組の進捗評価

基本的な施策		取組の 進捗評価	取組の数				
			3点～	2点～	1点～	0点	総数
④-1	環境学習機会の拡充	2.16	5	7	1	0	13
④-2	人材育成の実施	1.50	0	1	1	0	2
総合		1.83					

評価点 2 点を超える取組：① 生物多様性についての学習機会の増加
 （「基本的な施策：環境学習機会の拡充」に含まれる取組）
 ② 環境情報の提供
 （「基本的な施策：環境学習機会の拡充」に含まれる取組）
 ③ ふなばし三番瀬海浜公園の利用の推進
 （「基本的な施策：環境学習機会の拡充」に含まれる取組）
 ④ ふなばし三番瀬環境学習館での学習
 （「基本的な施策：環境学習機会の拡充」に含まれる取組）
 ⑤ 自然とふれあう機会の増加
 （「基本的な施策：環境学習機会の拡充」に含まれる取組）

評価点 0 点の取組：なし

【取組の進捗状況について】

- ・目標指標の状況では、「ふなばしエコカレッジ卒業生数」が目標値より下回っているが、目標値を上回っている指標が多く、ある程度予定に即した形で進行していると見受けられる。
- ・取組の進捗評価は、総合評価として 1.83 となっており、「ふなばしエコカレッジ」の取組に若干遅れが見られるが、「ふなばし三番瀬環境学習館での学習」等、順調に進んでいる取組が多く、ある程度予定に即した形で取組が進行しているものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	・レクリエーション施設等利用者数：目標値未達成。 ・生物多様性の認知度：アンケート回答者の約4割が認知。
取組の進捗状況	
取組の進捗評価点	1.83
まとめ	「ふなばしエコカレッジ」の取組に若干遅れが見られるが、「ふなばし三番瀬環境学習館での学習」等、順調に進んでいる取組が多く、ある程度予定に即した形で取組が進行しているものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	生物多様性の認知度が、令和4年度のアンケート調査より若干減少したこと、レクリエーション施設等の利用者数は、目標値に若干達しなかったことを鑑み、一部改善の余地はあるが、目標年度における目標達成に向けて概ね順調であることから評価をCとした。 生物多様性を認知する市民の割合は、アンケート回答者のうち約4割であった。環境フェアなどのイベントや講習会、出前講座等の環境教育等、各種啓発媒体により更に認知度を高めていく施策の取組を行うことで、自然の大切さに対する市民等の意識が高まり、生物多様性の保全に資する活動に向けた行動の普及促進が期待できると思われる。 レクリエーション施設等の利用者数は、各年度についてはある程度予定に即した形で進めているが、引き続き各種広報媒体により周知等の取り組みを進めていくことが望ましい。 今後については、戦略に基づき、市民ひとりひとりや事業者が生物多様性の恩恵と生物多様性を守るための行動・経済活動を認識できるように、環境学習機会の拡充や人材育成を実施していく必要がある。
C	

基本方針⑤：多様な主体の取組の推進

（生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞ P 8 7）

（１）状態指標の状況

基本方針⑤においては、状態指標を設定していないため、他の基本方針の状態指標のうち、適当と考えられる状態指標を使用して評価しました。

状態指標	基準値		現状 (2024年度) (令和6年度)		目標値		評価
	戦略策定時 (2015 年度) (平成27 年度)	戦略改定時 (2020 年度) (令和2 年度)			2025 年度 (令和7 年度)	2026 年度 (令和8 年度)	
			現状値	目標値			
生物多様性の認知度 (※1)〈再掲〉	調査実施前	40.6% (※2)	40.2% (※3)	認知度の 向上 (調査毎)	認知度の 向上 (調査毎)	認知度の 向上 (調査毎)	D
水辺を身近に感じる市民の 割合〈再掲〉	調査実施前	37.5% (※2)	42.2% (※3)	割合の向上 (調査毎)	割合の向上 (調査毎)	割合の向上 (調査毎)	B
みどりに対する満足度 〈再掲〉	調査実施前	63.5% (※2)	68.0% (※3)	満足度の 向上 (調査毎)	満足度の 向上 (調査毎)	満足度の 向上 (調査毎)	B

(※1) 言葉の意味まで理解している人の割合です。

(※2) 2022年度(令和4年度)実績値です。

(※3) 2024年度(令和6年度)実績値です。

【状態指標の状況について】

- ・生物多様性を認知する市民の割合は、令和4年度のアンケート調査より減少したため、割合が増えるよう各施策に取り組む必要がある。
- ・水辺を身近に感じる市民の割合は、令和4年度のアンケート調査より増加したことから、今後も割合が増えるよう各施策に取り組む必要がある。
- ・みどりに対する満足度は、令和4年度のアンケート調査より増加したことから、今後も割合が増えるよう各施策に取り組む必要がある。

(2) 取組の進捗状況

●目標指標の状況

目 標 指 標	基 準 値		現 状 (2024年度) (令和6年度)		目 標 値	
	戦 略 策 定 時 (2015 年度) (平成27 年度)	戦 略 改 定 時 (2020 年度) (令和2 年度)			2025 年度 (令和7 年度)	2026 年度 (令和8 年度)
	現 状 値	目 標 値				
基本的な施策⑤-1 多様な主体の取組の支援						
こどもエコクラブ登録団体数	10クラブ	8クラブ	14クラブ	増加	増加	増加
ふなばしエコカレッジ卒業後の体験入団数	実施前	実施前	累計40人	累計55人	累計90人	180人 (累計)
基本的な施策⑤-2 多様な主体の連携の促進						
船橋をきれいにする日参加人数	3,102人	実施せず	約6,070人	8,600人	6,200人	6,300人

●取組の進捗評価

基本的な施策		取組の 進捗評価	取組の数				
			3点～	2点～	1点～	0点	総数
⑤-1	多様な主体の取組の支援	1.86	0	6	1	0	7
⑤-2	多様な主体の連携の促進	1.90	0	5	0	0	5
総合		1.88					

評価点2点を超える取組：なし

評価点0点の取組：なし

【取組の進捗状況について】

- ・目標指標の状況では遅れが見られる指標もあるが、全体的にある程度予定に即した形で進行していると思受けられる。
- ・取組の進捗評価は、総合評価として1.88となっており、一部で若干の遅れが見られるものの、全体では順調に進んでいる取組が多く、ある程度予定に即した形で取組が進んでいるものと見受けられる。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	・ 生物多様性の認知度：アンケート回答者の約4割が認知。 ・ 水辺を身近に感じる市民の割合：アンケート回答者の約4割。 ・ みどりに対する満足度：アンケート回答者の7割弱が満足していると回答。
取組の進捗状況	
取組の進捗評価点	1.88
まとめ	一部で若干の遅れが見られる取組があるものの、順調に進んでいる取組が多く、ある程度予測に即した形で取組が進んでいるものと見受けられる。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	生物多様性を認知する市民の割合は、令和4年度アンケート調査より減少し、回答者のうち約4割であった。水辺を身近に感じる市民の割合は、令和4年度アンケート調査より増加し、回答者のうち4割強であった。みどりに対する満足度は、令和4年度アンケート調査より増加し、回答者の7割弱が満足していると回答していた。以上のアンケート結果について、生物多様性の認知度は減少したが、水辺を身近に感じる市民の割合とみどりに対する満足度は増加したため、評価をCとした。 今後については、引き続き戦略に基づき、生物多様性に関する取り組みを推進する市民等への支援、ふなばしエコカレッジを軸とした自然環境保全に向けた持続可能な仕組みづくり、生物多様性情報室や市民活動サポートセンター等を活用した人材の交流や多様な主体の連携の促進等の取組を継続することで、様々な主体の活発な活動を促進し、市民の方の生物多様性に関する意識向上にもつなげていきたい。
C	

◆リーディングプロジェクト毎の評価

リーディングプロジェクトにおいては、戦略策定・改定時においては、状態指標を設定していませんでしたが、適当と考えられる状態指標を各プロジェクトに設定して評価しました。

リーディングプロジェクト①：「船橋の自然の情報を集めよう！見える化しよう！」 プロジェクト（生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞ P 9 2）

（１）状態指標の状況

状態指標	基準値		現状 (2024年度) (令和6年度)		目標値		評価
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)			2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	
			現状値	目標値			
生物多様性の認知度 (※1) (再掲)	調査実施前	40.6% (※2)	40.2% (※3)	認知度の向上 (調査毎)	認知度の向上 (調査毎)	認知度の向上 (調査毎)	D

(※1) 言葉の意味まで理解している人の割合です。

(※2) 2022年度(令和4年度)実績値です。

(※3) 2024年度(令和6年度)実績値です。

（２）取組の進捗状況

●目標指標の状況（戦略に記載した目標指標）

目 標 指 標	基 準 値		現 状 (2024年度) (令和6年度)		目 標 値	
	戦 略 策 定 時 (2015 年度) (平成27 年度)	戦 略 改 定 時 (2020 年度) (令和2 年度)			2025 年度 (令和7 年度)	2026 年度 (令和8 年度)
			現 状 値	目 標 値		
動植物種の状況	c 評価 (平成28 年度)	c 評価 (令和3 年度)	c 評価	c 評価	b 評価	b 評価
指標種のモニタリング調査報告件数	調査実施前	30件	255件	200件	200件	200件

●取組の進捗状況

取組	取組の 進捗評価点
自然環境調査の実施	2.00
指標種を用いたモニタリングの実施（モニタリング調査実施及び情報の共有化）	3.00
生物多様性保全上重要な地域などの情報整備	2.00
生物多様性保全に資する民有緑地の認定を見据えた取組の推進	2.00
生物多様性配慮の緑化ガイドライン設定の検討	2.00
総 合	2.20

（注）上記はリーディングプロジェクトに記載されている市の取組を簡略化した表現にしています。

（３）評価

状態指標の状況	
まとめ	・生物多様性の認知度：アンケート回答者の約４割が認知。
取組の進捗状況	
取組の進捗評価点	2.20
まとめ	順調に取組が進んでいるものと見受けられる。 なお、目標指標における、「動植物種の状況」の評価については、自治体による自然環境調査の実施状況により評価されるものであるため、令和６年度から７年度にかけて自然環境調査を実施することにより評価の向上が見込まれる。
評価と評価に対するコメント	
評価 （状態指標の数値を中心とした評価）	評価に対するコメント
D	状態指標となる生物多様性の認知度は、令和４年度のアンケート調査より減少したことから評価をDとした。 今後については、市民参加型の生物モニタリングとそのマップ化等の各取組を通じて、自然の大切さに対する市民等の意識や生物多様性認知度を高め、より多くの生物多様性の情報が集まる好循環につなげていくことが必要と考えられる。

リーディングプロジェクト②：「生物多様性の大切さを学ぼう！」プロジェクト
（生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞ P 9 3）

（１）状態指標の状況

状態指標	基準値		現状 (2024年度) (令和6年度)		目標値		評価
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)			2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	
			現状値	目標値			
地場食材を意識して購入している市民の割合	54.5%	61.1% (※1)	69.1%	68%	70%	70%	B
生物多様性の認知度 (※2)	調査実施前	40.6% (※3)	40.2% (※4)	認知度の向上 (調査毎)	認知度の向上 (調査毎)	認知度の向上 (調査毎)	D

(※1) 2019年度(令和元年度)実績値です。

(※2) 言葉の意味まで理解している人の割合です。

(※3) 2022年度(令和4年度)実績値です。

(※4) 2024年度(令和6年度)実績値です。

(2) 取組の進捗状況

●目標指標の状況（戦略に記載した目標指標）

目 標 指 標	基 準 値		現 状 (2024年度) (令和6年度)		目 標 値	
	戦 略 策 定 時 (2015 年度) (平成27 年度)	戦 略 改 定 時 (2020 年度) (令和2 年度)			2025 年度 (令和7 年度)	2026 年度 (令和8 年度)
			現 状 値	目 標 値		
ふるさと農園区画数	1,146区画	1,054区画	448区画	1,482区画	1,608区画	1,700区画
地場産物の食材を活用した「食に関する指導」の授業を実施した学校の割合	56.10%	62.20%	72.0%	76%	75%	80%
環境に関する講座の参加延人数（※1）	1,663人	1,957人	2,693人	2,100人	2,200人	2,300人以上 （毎年度）
環境フェア来場者数（※2）	4,500人	973人	2,637人	2,100人	2,550人	3,000人以上 （毎年度）
環境新聞「エコふなばし」発行回数	1回	1回	2回	2回	2回	3回
ふなばし三番瀬環境学習館の総利用者数	25,236人 （平成29年度）	17,895人	69,472人	58,000人	58,000人	58,000人
ふなばし三番瀬環境学習館で実施する野外ワークショップの参加人数	988人 （平成29年度）	885人	2,834人	2,600人	2,600人	2,600人

（※1） 報告書作成時における、直近3年間の平均値です。

（※2） 報告書作成時における、直近3回の平均値です。

●取組の進捗状況

取組	取組の 進捗評価点
学校給食での地元食材の提供等を通じた食育の推進	2.00
農業体験の場の整備	1.00
三番瀬や漁業への理解の促進	2.00
生物多様性についての学習機会の増加	2.25
生物多様性配慮の緑化ガイドライン設定の検討	2.33
ふなばし三番瀬環境学習館での学習	3.00
ふなばし三番瀬海浜公園の利用の推進	2.00
事業者を対象とした生物多様性に関する普及啓発	2.00
生物多様性配慮に関する身近でわかりやすい手引き等の作成	3.00
	2.18

(注) 上記はリーディングプロジェクトに記載されている市の取組を簡略化した表現にしています。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	・ 地場食材の購入割合：基準値を上回る状況。 ・ 生物多様性の認知度：アンケート回答者の約4割が認知。
取組の進捗状況	
取組の進捗評価点	2.18
まとめ	一部で若干の遅れが見られる取組があるものの、全体としては順調に進んでいる取組が多く、ある程度予定に即した形で取組が進んでいるものと見受けられる。 なお、目標指標における、「ふるさと農園区画数」については、相続等を理由とするやむをえない状況による閉園が新規開設を上回っている状況であるが、農作物の栽培をやめる土地の所有者がおられる場合には、機会をとらえてふるさと農園への協力を提案しており、今後も継続していく。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	生物多様性の認知度は割合が減少した一方、地場食材を意識して購入している市民の割合は目標年度における目標達成に向けて順調な状況であることから評価をCとした。ふなばし三番瀬環境学習館の利用者数や、各種イベントへの申し込み等も増加傾向にあり、一部では生物多様性への興味、関心の高まりも見受けられる。 今後については、令和6年度に作成された「生物多様性配慮に関する手引き」等により、生物多様性に関する意識醸成に様々な形でアプローチする。また、当プロジェクトの取組を着実に進めることで、生物多様性の保全に資する活動に向けた行動の普及促進が期待できると思われる。
C	

リーディングプロジェクト③：「生物多様性へ配慮するための仕組みづくり」
プロジェクト（生物多様性ふなばし戦略＜改定版＞ P 9 4）

（１）状態指標の状況

状態指標	基準値		現状 (2024年度) (令和6年度)		目標値		評価
	戦略策定時 (2015年度) (平成27年度)	戦略改定時 (2020年度) (令和2年度)			2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	
	現状値	目標値					
生物多様性の認知度 (※1)	調査実施前	40.6% (※2)	40.2% (※3)	認知度の向上 (調査毎)	認知度の向上 (調査毎)	認知度の向上 (調査毎)	D

(※1) 言葉の意味まで理解している人の割合です。

(※2) 2022年度(令和4年度)実績値です。

(※3) 2024年度(令和6年度)実績値です。

（２）取組の進捗状況

●目標指標の状況（戦略に記載した目標指標）

目 標 指 標	基 準 値		現 状 (2024年度) (令和6年度)		目 標 値	
	戦 略 策 定 時 (2015 年度) (平成27 年度)	戦 略 改 定 時 (2020 年度) (令和2 年度)			2025 年度 (令和7 年度)	2026 年度 (令和8 年度)
			現 状 値	目 標 値		
ふなばしエコカレッジ卒業生数	実施前	実施前	20人	30人	30人	60人

●取組の進捗状況

取組	取組の 進捗評価点
ふなばしエコカレッジの開講	1.00
市民や団体をつなぐコーディネート実施の検討	2.00
生物多様性情報室における連携の促進	2.00
生物多様性への配慮指針（チェックリスト）の策定	1.00
生物多様性配慮の緑化ガイドライン設定の検討	2.00
総 合	1.60

（注）上記はリーディングプロジェクトに記載されている市の取組を簡略化した表現にしています。

(3) 評価

状態指標の状況	
まとめ	・ 生物多様性の認知度：アンケート回答者の約4割が認知。
取組の進捗状況	
取組の進捗評価点	1.60
まとめ	一定のものは順調に取り組みが進行している一方、進行が遅れている取り組みが見受けられる。 「ふなばしエコカレッジ卒業生数」については、卒業生数が目標値に届かたなったが、募集時期の変更や効果的な広報により受講者数の増加を図っていく。
評価と評価に対するコメント	
評価	評価に対するコメント
(状態指標の数値を中心とした評価)	生物多様性の認知度は、令和4年度のアンケート調査より減少したことから評価をDとした。
D	今後については、ふなばしエコカレッジの運営を軸として、生物多様性保全の担い手づくりの好循環を図るとともに、工事における生物多様性への配慮を促す生物多様性に関する配慮指針(チェックリスト)についても、庁内の関係する規定等との整合や市の自然環境の状況も勘案して慎重に作成を進めていく必要があると考えられる。